

平成 23 年 9 月 16 日

魔法のふでばこプロジェクト 状況報告

長野盲学校 月岡俊明

1 今年度の iPad の活用目標と活用状況

(1) 「いつでもどこでも iPad」「iPad でぱっと交流」

- ・小学部の宿泊学習のときに、iPad で撮った写真にコメントをつけ、水族館や旅館、プールのロビーなどから学校へ数回にわたり活動内容を報告。子ども達の生き生きとした活動の様子が伝わり、好評だった。帰校後「よかったよ」と声をかけてもらい児童も喜んでいました。
- ・メールは、4 年生 2 名の居住地校へも送信。弱視の児童は自分でキーボード入力し、全盲の児童は、児童が考えた内容を職員が代理で入力。今後は、全盲の児童が声で入力してメールを送信できるように、音声入力アプリにも挑戦したい。

(2) 「自分で iPad」

- ・言語面で発達の遅れが見られる児童が利用。iPad を使う時間になると、保管されている職員室まで手を引っ張っていき「これ」と指さし、とても興味関心を持っている。学習では、職員と一緒に基本操作をした後、画面をいろいろタッチして、学習した基本以外の操作方法も見つけ出すことができる。平仮名のアプリでは、職員が画面に出ている名前を読むと復唱できるようになった。お絵かきアプリでは、職員と交代で絵を描いて楽しんでいる。

2 アプリケーション 利用している物、インストールしてある代表的な物

- ・かなもじ（ひらがな） ・モジルート（すうじ） ・ナゾルート（運筆）
- ・筆順辞典（漢字） ・ドラキッズ（数の学習 1～5）
- ・さわって生まれる！動くお絵かき for iPad（なぞると動く）
- ・Dictation（音声入力） ・DropTalk
- ・リアル黒板 HD（お絵かき） タッチうごくうたえほん
- ・くまの絵本